

特許協力条約

PCT

特許性に関する国際予備報告 (特許協力条約第二章)

(法第 12 条、法施行規則第 56 条)

[PCT36 条及び PCT 規則 70]

REC'D 29 SEP 2005

WIPO

PCT

出願人又は代理人 の書類記号 1778WO	今後の手続きについては、様式 PCT/IPEA/416 を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP2004/013714	国際出願日 (日.月.年) 14.09.2004	優先日 (日.月.年) 26.09.2003
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. ⁷ C09K3/00, C08K3/00, C08L29/14, C08L101/00, G02B5/22		
出願人 (氏名又は名称) 呉羽化学工業株式会社		

- この報告書は、PCT35 条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。
法施行規則第 57 条 (PCT36 条) の規定に従い送付する。
- この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 3 ページからなる。
- この報告には次の附属物件も添付されている。
 - ☒ 附属書類は全部で 4 ページである。
 - ☒ 補正されて、この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び/又は図面の用紙 (PCT 規則 70.16 及び実施細則第 607 号参照)
 - ☐ 第 I 欄 4. 及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙
 - ☐ 電子媒体は全部で (電子媒体の種類、数を示す)。
配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。(実施細則第 802 号参照)

4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。

- ☒ 第 I 欄 国際予備審査報告の基礎
- ☐ 第 II 欄 優先権
- ☐ 第 III 欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
- ☐ 第 IV 欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第 V 欄 PCT35 条 (2) に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☐ 第 VI 欄 ある種の引用文献
- ☐ 第 VII 欄 国際出願の不備
- ☐ 第 VIII 欄 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 21.07.2005	国際予備審査報告を作成した日 08.09.2005		
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目 4 番 3 号	特許庁審査官 (権限のある職員) 渡辺 陽子	4 V	3 3 4 4
	電話番号 03-3581-1101 内線 3483		

様式 PCT/IPEA/409 (表紙) (2004 年 1 月)

第I欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、_____ 語による翻訳文を基礎とした。

それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査

☐ PCT規則12.4にいう国際公開

☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☐ 出願時の国際出願書類

☒ 明細書

第 _____ 1-18, 20-22 _____ ページ、出願時に提出されたもの

第 _____ 19 _____ ページ*、21.07.2005 付で国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ _____ ページ*、付で国際予備審査機関が受理したもの

☒ 請求の範囲

第 _____ 6, 8-10, 15 _____ 項、出願時に提出されたもの

第 _____ _____ 項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの

第 _____ 1, 5, 7, 14 _____ 項*、21.07.2005 付で国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ _____ 項*、付で国際予備審査機関が受理したもの

☒ 図面

第 _____ 1-5 _____ ページ/図、出願時に提出されたもの

第 _____ _____ ページ/図*、付で国際予備審査機関が受理したもの

第 _____ _____ ページ/図*、付で国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☒ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 _____ ページ

☒ 請求の範囲 第 _____ 2-4, 11-13 _____ 項

☐ 図面 第 _____ ページ/図

☐ 配列表(具体的に記載すること) _____

☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 _____ ページ

☐ 請求の範囲 第 _____ 項

☐ 図面 第 _____ ページ/図

☐ 配列表(具体的に記載すること) _____

☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、
それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性(N)	請求の範囲	1, 5-10, 14, 15	有
	請求の範囲		無
進歩性(IS)	請求の範囲	1, 5-10, 14, 15	有
	請求の範囲		無
産業上の利用可能性(IA)	請求の範囲	1, 5-10, 14, 15	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明(PCT規則70.7)

〈請求の範囲1, 5-10, 14, 15〉

下記参考文献を含む先行技術文献には、本願所定のリン含有銅化合物よりなる赤外線吸収剤と、本願所定の金属塩化合物よりなる黒化防止剤とを含有する赤外線吸収性組成物を示唆する記載が存在しないので、本願発明は新規性及び進歩性を有するものである。

参考文献一覧

- 1: JP 6-207161 A (旭硝子株式会社) 1994. 07. 26
- 2: JP 9-211220 A (呉羽化学工業株式会社) 1997. 08. 15
- 3: JP 2002-97041 A (積水化学工業株式会社) 2002. 04. 02
- 4: JP 11-52125 A (呉羽化学工業株式会社) 1999. 02. 26
- 5: WO 99/26952 A (呉羽化学工業株式会社) 1999. 06. 03
- 6: JP 2002-212540 A (呉羽化学工業株式会社) 2002. 07. 31

上記参考文献1～3は、国際調査報告に記載されたものである。

黒化防止剤が酢酸カリウムである実施例4において、黒化防止剤の量を0.002gおよび0.00002gに変更したこと以外は、実施例4と同様にして2種の赤外線吸収性樹脂組成物シート体を作製し、更にこれらの各々を用いて実施例1と同様にして2種の合わせガラスを作製した。これらを「試料10」および「試料11」とする。

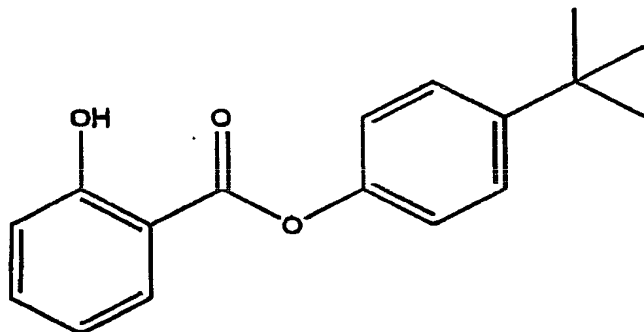
〔参照例1〕

黒化防止剤を用いないこと以外は実施例1と同様にして参照用の合わせガラスを作製した。これを「参照試料1」とする。

〔比較例1〕

黒化防止剤に代えて下記式(6)で表される紫外線吸収剤「バイオソープ90」(共同薬品社製)を用いたこと以外は実施例1と同様にして比較用の合わせガラスを作製した。これを「比較試料1」とする。

式(6)



〔実験例〕

上記の試料1～試料11、参照試料1および比較試料1の各々に対して、消費電力7.5kWのキセノンアーク放電灯を装着したキセノンウェザーメーター「アトラスC135」(東洋精機製作所製)を用いて紫外線を含む光の照射をエネルギーが0.85W/m²となる条件で100時間にわたって行った。

そして、紫外線照射後の各試料について、黒化現象の発生の有無を肉眼で観察したところ、試料1～試料11には黒化現象の発生は認められなかった。図4は、紫外線照射後の試料4の写真である。

一方、参照試料1では、多数の微小な黒い粒子状の斑点が生じていて黒化現象の発生が

請 求 の 範 囲

1. (補正後) 2価のイオン性銅化合物よりなる赤外線吸収剤と、この赤外線吸収剤による黒化現象を防止する金属塩化合物よりなる黒化防止剤とを含有してなり、

赤外線吸収剤を構成する2価のイオン性銅化合物が、リン酸エステル化合物、ホスホン酸化合物、ホスホン酸エステル化合物およびホスフィン酸化合物から選ばれたリン化合物によるリン含有銅化合物であり、

黒化防止剤を構成する金属塩化合物が、リチウム、ナトリウム、カリウム、セシウム、マグネシウムまたはマンガンによる化合物であることを特徴とする赤外線吸収性組成物。

2. (削除)

3. (削除)

4. (削除)

5. (補正後) リン化合物が、アルキルリン酸エステルであることを特徴とする請求項1に記載の赤外線吸収性組成物。

6. アルキルリン酸エステルは、アルキル基の炭素数が4～18の化合物であることを特徴とする請求項5に記載の赤外線吸収性組成物。

7. (補正後) 樹脂成分中に、2価のイオン性銅化合物よりなる赤外線吸収剤と、この赤外線吸収剤による黒化現象を防止する金属塩化合物よりなる黒化防止剤とが含有されてなり、

赤外線吸収剤を構成する2価のイオン性銅化合物が、リン酸エステル化合物、ホスホン酸化合物、ホスホン酸エステル化合物およびホスフィン酸化合物から選ばれたリン化合物によるリン含有銅化合物であり、

黒化防止剤を構成する金属塩化合物が、リチウム、ナトリウム、カリウム、セシウム、マグネシウムまたはマンガンによる化合物であることを特徴とする赤外線吸収性樹脂組成物。

8. 赤外線吸収剤の割合が樹脂成分100質量部に対して0.1～45質量部であり、黒化防止剤の割合が赤外線吸収剤における2価の銅イオンに対して0.01～200質量%であることを特徴とする請求項7に記載の赤外線吸収性樹脂組成物。

9. 樹脂成分が、アセタール構造を有する樹脂を含有することを特徴とする請求項7または請求項8に記載の赤外線吸収性樹脂組成物。

10. 樹脂成分が、ポリビニルアセタール樹脂を含有することを特徴とする請求項7または請求項8に記載の赤外線吸収性樹脂組成物。

11. (削除)

12. (削除)

13. (削除)

14. (補正後) リン化合物が、アルキルリン酸エステルであることを特徴とする請求項7～10のいずれかに記載の赤外線吸収性樹脂組成物。

15. アルキルリン酸エステルは、アルキル基の炭素数が4～18の化合物であることを特徴とする請求項14に記載の赤外線吸収性樹脂組成物。